

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	すこやか親子・子育て支援事業			財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	保健福祉部	課等名	保健課	包含する細々目	1	4	1	2	11	1	6,009	
政策	2 地育力によるこころ豊かななづくり											
施策	21 乳幼児教育の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等			次世代育成支援飯田市行動計画・母子保健法・すこやか親子21				
		事業期間	17	年度～		年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	乳幼児(0～3歳)とその保護者 妊婦とその配偶者 体験学習実施高校生	各年の出生児数 人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	6066
		妊婦1000人と配偶者				
		体験学習実施校の対象生徒数 人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		300
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	乳幼児が、その発達段階に応じて健全な育ちができる。 子育てについての不安が軽減できる。 次世代の親の育成	乳児訪問実施率 %	18目標	95	最終目標	
18実績			94	19目標	95	
高校生・中学生ふれあい体験学習参加校数		18目標	4校	最終目標		
		18実績(2学2校含む)	19目標	5校		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	安心して子どもを生み健やかに育てるための育児支援や病気・発達の遅れ等の早期発見と必要な児には療育につながる機会として訪問指導や健康相談等の実施、また親の子育て不安やストレスの解消、子どもの集団遊びの経験の場とする。	18年度の実績 ・出生0～2ヶ月児の全員に対して保健師による家庭訪問指導の実施 ・乳幼児健康相談において 生活のリズムや食習慣の基礎等について指導(7ヶ月児、12ヶ月児、2歳児) 延べ168回 ・離乳食講座の実施 前期10回、後期6回 ・発達支援の必要な親子に対して遊びの広場開設 ・乳幼児学級開催と育児サ・クルへの支援 ・高校生乳児ふれあい体験学習 ・妊婦とその配偶者を対象にパパママ教室の実施 1講座3回×5講座	乳児訪問延べ数 乳幼児学級実施回数と参加延べ親子数 回・組 ぐれあい体験学習参加校・生徒数	970人 666回 10751人 4校・280人
	19年度計画	・出生0～2ヶ月児の全員に対して保健師による家庭訪問指導の実施 ・乳幼児健康相談 7ヶ月児、12ヶ月児、2歳児 延べ161回 ・離乳食講座の実施 前期10回、後期6回 ・発達支援の必要な親子に対して遊びの広場開設 2会場23回 ・乳幼児学級開催と育児サ・クルへの支援 ・高校生乳児ふれあい体験学習 ・妊婦とその配偶者を対象にパパママ教室の実施 1講座3回×5講座	乳児訪問延べ数 乳幼児学級実施回数と参加延べ親子数 回・組 ぐれあい体験学習参加校・生徒数	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	1,680	3,006
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,680	3,003
	事業費計(A)	3,360	6,009
人件費	正規職員所要時間	18年度 6,640	19年度 6,640
	臨時職員等所要時間	324	2,268
	人件費計(B)	24,093	26,183
	トータルコストA+B	27,453	32,192

特定財源内訳や補足事項	次世代育成支援対策事業 国1/2
-------------	------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値				
	発達段階に応じた健全な育ちができる	基本的な生活習慣が身についている子どもの割合(教育委員会生活アンケート) %	現状値	58.7	19実績		
			20実績		21実績		
				22実績		23目標	
			現状値		19実績		
			20実績		21実績		
		22実績		23目標			

<p>この事業を開始したきっかけ 妊婦や乳幼児に対する母子保健事業は、母子保健法に基づいて実施されている。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化 核家族化や少子化がすすむなかで、家族内で養われてきた親から子に伝承される生活習慣やしつけ、兄弟関係で培われる共存や助け合いが、家の中では取得されなくなっており、親の未熟や経験不足を地域社会で支援する必要が生じている。 また子育ての楽しさや喜びを感じられるような働きかけや、地域で子育て家族をサポ-トする体制づくりが求められている。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見 議会では子育て支援の拡充を求める意見が多い。乳幼児学級等への参加者が非常に増加しており、同年齢の子どもとその親の交流や仲間づくりの場として、また育児不安やストレスの解消、育児相談の場としての役割を果たしている。</p>
--	--	--

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由) 母子の健康増進と育児支援は、健やかな子育てにつながる。</p>	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由) 高校生乳児ふれあい体験学習は未実施の高校があり、実施を呼びかける必要がある。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由) 出生数は減少しているが対象そのもの見直しの必要はない</p>	<p>有効性評価 廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由) 虐待等が社会問題化しており、育児不安やストレスの解消、育児相談の場、仲間づくりの場となっており、事業の廃止は親の孤立化につながる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由) 子育て支援は重点施策のひとつであり、次世代育成飯田市行動計画に事業が盛り込まれている。</p>	<p>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 市や公民館の実施する乳幼児学級と自主的な活動としての育児サ-クルがあるが、それぞれ内容や役割が異なり参加者が目的によって参加している。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由) 母子保健法により市町村が実施主体となっている事業である。</p>	<p>効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由) 事業費のほとんどが保健師・保育士等の人件費であり、事業費の削減は事業の縮小につながる。</p>
			<p>公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由) 乳幼児学級・パパママ教室の食材費等は、参加者が負担している。</p>

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 → 具体化</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p>
--	-----------------------------

【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	

【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	